

まいぶんレポート

1日目



小松市の雇用人材マッチング事業で、小松市埋蔵文化財センターでお仕事をしている大学生1年生のAです。小松市埋蔵文化財センターで経験したお仕事を紹介します。1日目は**注記作業**をしました。

小松市埋蔵文化財センター

小松市埋蔵文化財センターについて紹介



小松駅から山側に進んだ山や川がある**自然豊かな場所**にあります。昔の生活で使われた物を作る体験を、**体験することができます**。周辺はツーリングスポットであるため、小松市埋蔵文化財センターに車で立ち寄り、**土器の展示を観覧される方も**いらっしゃいます。

注記作業



土器を1つにまとめるために筆で**記号を記入する作業**

ポイント

注記作業をした感想を紹介



川や風の音を聞きながら静かに**行いリフレッシュ**することができた



歴史の教科書に載っている須恵器に実際に触れて**注記**することができた

紹介した注記作業以外にも分類作業・実測作業などの**多くの作業を行う**ことで、出土品を整理することができます。小松市埋蔵文化財センターの2階ではこのような**出土品整理作業**を行っています。



まいぶんレポート

2日目



2回目は、**分類作業**をしました。土器のかけらを分類してから合致する土器のかけらを見つけます。前回の注記作業で出土した場所や年を記入した土器のかけらを使用しました。

注記作業

つぼ・かみ
壺・甕・鉢・印が押された土器に分類

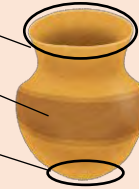


その他の土器を

口の部分

胴体の部分

底の部分



合致する土器を見つけ



ポイント

クイズ

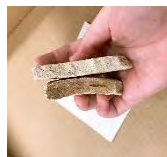


上の土器のかけらと合致する土器のかけらは下の3つのうちどれでしょう？



答え①は土器の割れた断面

の色と厚さが違う



②は表面の色が違う



正解は③



どの3つの土器のかけらも上の土器のかけらに合致しそうですがかけらの表面や断面に違いがあり③が合致しました

私が分類した加賀焼という土器はまだ知られていないことが多くあります。そのため、分類作業中に加賀焼についての**新しい発見**をする可能性があります！



まいぶんレポート

3日目



3日目は、**藍の生葉染め**をしました。藍の葉が夏にしか取れないので、小松市埋蔵文化財センターで体験できる夏限定の体験です。藍の葉から抽出した液体で絹を青色に染めました。

藍の生葉染

藍の生葉染め体験の様子

カブッキーも体験！



YouTubeに藍の生葉染めの作り方動画がアップされています。作り方動画はコチラ↓ (小松市公式YouTube)

<https://youtu.be/nsa3wmBR5C8>



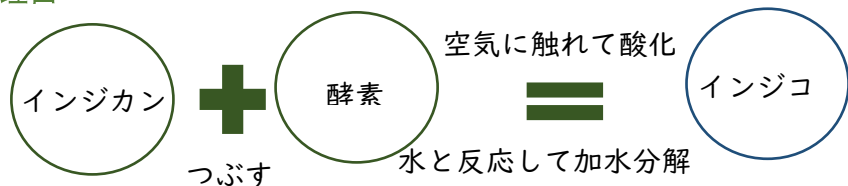
ポイント

不思議

葉の**緑色**の液体が**青色**に染まるのはなぜ？



理由



藍の葉には「**インジカン**」と「**酵素**」というものが含まれています。藍の葉をつぶすことで「インジカン」と「酵素」が結びつき、「**インジコ**」という青色が発生します。したがって、葉の緑色の液体によって絹を青色に染めることができるのです。

新鮮な藍の葉と絹を使用することで化学反応が起きて葉の緑色の液体が青色に染まるので、**理科の実験**のようでした。さらに昔の人がその化学反応を利用して藍染めを生み出したことに**感動**しました。



まいぶんレポート

4日目



4回目は、**拓本作業**をしました。土器の表面の模様を画仙紙（中国で作られた伸張性を持つ紙）に写し取る作業です。写真よりも効率良く正確に土器の模様を写し取ることができます。

拓本作業

画仙紙を水に濡らす



スポンジで土器を押す



画仙紙が完全に乾く前に
拓本用墨をたんぽで打つ



乾かして完成



ポイント

土器の模様から分かること



模様に用いられた道具が
分かり、道具の違いから
地域の特徴が分かる



土器の模様をどのように
入れたかなどから土器を
作った**当時の人の様子**が
分かる



土器に同じ道具で描かれた
模様があれば、その地域と
交流があったことが分かる

私が分類した加賀焼という土器はまだ知られていないことが多くあります。
そのため、分類作業中に加賀焼についての**新しい発見**をする可能性があります！



まいぶんレポート

5日目



6日目は、**実測作業**をしました。土器を計測して方眼紙に写し、参考資料をつくる作業です。実測を行う作業員の方は何度も図り直し、ミリ単位までも正確に測っている姿に感動しました。

実測作業

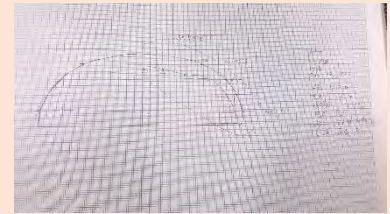
マーコで土器の丸みを測り方眼紙に記入



キャリパーで土器の厚さを測り方眼紙に記入



土器の特徴（色・焼き具合・残り具合・含まれる砂・作り方・回転の向き）を記入

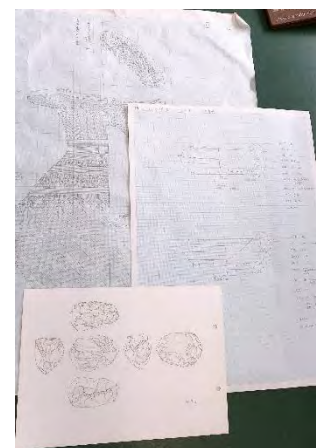


ポイント

珍しい道具



埋蔵文化財センターの職員の方が描いた実測図



実測では土器の特徴（色・焼き具合・残り具合・含まれる砂・作り方・回転の向き）も記入します。この情報から、つくられた**年代**や**地域**が分かるらしいです！すごいですよね。



まいぶんレポート

6日目



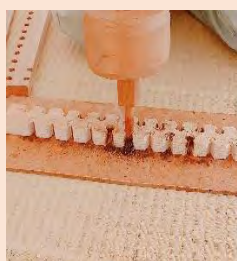
6日目は、「まいぎり」といわれる火起こしをしました。実際に火起こしを体験して腕が筋肉痛になりました。このことから、簡単に火を使うことができる現代の生活がどれほど便利なのか身に染みて分かりました。

火起こし

木をこすり合わせると摩擦で煙が出る



黒い木くずが出る



息を吹きかけると火種が完成



火種を燃えやすい材質（ゼンマイの綿・スギの皮など）の中に入れて息を吹きかけて火を起す



ポイント

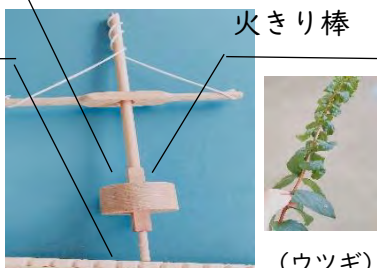
小松市埋蔵文化財センターで体験・実演する火起こしの方法をご紹介します。
※道具は小松市埋蔵文化財センター職員の方の手作り

まいぎり

はずみ棒（ブナ・カシ）（江戸時代～）

火きり板（スギ）

木くずを下に落とすために切り込みが入っている



火きり棒



（ウツギ）

もみぎり

（縄文時代～）



火打石・火打金

（鎌倉時代～）



火種

小松市で出土した火きり板が小松市埋蔵文化財センターで展示されているのでご来館の際にぜひご覧ください。



まいぶんレポート

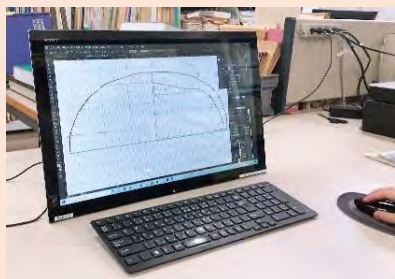
7日目



7日目は、**トレース作業**をしました。これで出土品整理作業のお仕事は最後です。トレース作業は、実測作業で描いた土器の図面を、イラストレーターといわれるソフトを使用してパソコンで清書する作業です。

トレース作業

トレース作業の様子



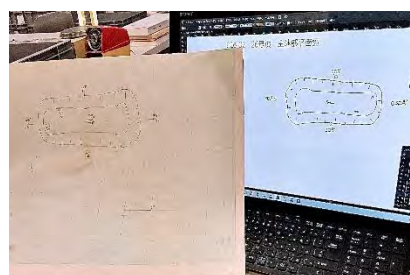
清書された図面は報告書に掲載します。報告書は、工事や開発事業に伴って行われた発掘調査の内容について書かれています。発掘調査された地域の方・全国で遺跡調査に携わっている方に向けて小松市埋蔵文化財センターHPに掲載されています。

報告書はコチラからご覧いただけます↓

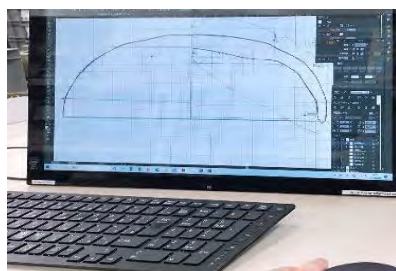
<https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/maizoubunkazai/kankoushiryou/index.html>

ポイント

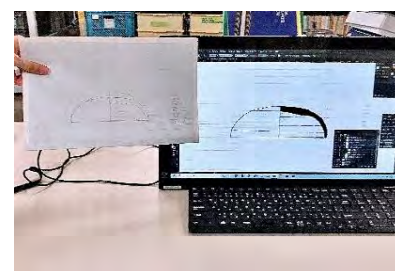
パソコンでトレース作業を行う利点



描き間違えても、簡単に
修正できる。



デジタル化された報告書を
拡大したとき、手書きされた
図面よりも**クリア**に見える。



土器の図面がデジタル化
されるのでパソコン上に
報告書を**掲載**しやすくなる。

自分の住んでいる町の歴史を報告書でより詳しく知る事が出来てとても興味深かったです。また、報告書を作成することで、小松市の出土品を**守**ってくださっていたことを知りました。このことを知り、小松市民として小松市埋蔵文化財センターの方に**感謝**したいと思います。

